



私たちのビジネスの社会的意義

株式会社ベストスピーカー教育研究所
取締役 高浜希三子



OMA

女性経営者シリーズ

弊社・ベストスピーカー教育研究所は、社会人を主な対象とし、パブリックスピーチ/プレゼンテーションのスキル向上のための実践型セミナー事業を2004年にスタートさせ現在に至っている。その集客方法は2つのWEBサイト。サイト名は「ベストスピーカー」と「ベストプレゼン」である。現在、東京・大阪・名古屋でトータル毎月6～8回、セミナーを開催している。

私たちのセミナーの特色は、①少人数制で各人の改善点を個別指導、②1日集中で成果を出す、③授業は70%が本人の行う実践・実技（聞くだけの講座ではない）という3点。これはクライアントから高評価を頂いたことで10年以上継続して実績を重ねてこられたと考えている。

その中であって、私の仕事は、マーケティング、集客に対する様々な“仕掛け”の立案、ホームページの企画・運営、セミナー受講者の管理。つまりこのビジネス全体の動向を当初からずっと見続けてきて、ある意味、「コミュニケーションの定点観測」をしてきたといえる。

そんなことでコミュニケーションという観点から、この約11年の間に社会が少しずつ変わり、事業開始時よりずいぶん大きな変容になっていると感じる。

一例として、ITの発達による会話力の低下。

今や子供のころから、メールやLINEなどのツールを介して“書くこと”で伝える。文面だけの伝達のため誤解を招かないよう丁寧で婉曲な表現になる。またTPOにそぐわない“タメ口”や過激表現か。そこには、目の前に相手がいるという存在感も、相手の直の反応も感じることはない。

初対面の人に打ち解けてもらえるように話しかける、ちょっとやっかいな頼み事を了解してもら

うために話す、そんな人間関係が必要とされる、相手を見て“話す”という訓練がされないまま社会人となる。

だから、最近のセミナーに参加する人の問題点トップは「伝わらない」。大多数の人がそう口にする。

私は、「楽しい人生は豊かなコミュニケーションから」とずっと思っている。実際、先日受講生からのお礼メールに「今では妻や子供たちとの会話もぐっと増えて、いろんなことがうまく回り始めました」と書いてこられた。その人にとって私たちのセミナーが、ビジネスで好成績を出すためだけのものでなく、「話す」ことを自分の人生、そして家庭を良くする引き金となったことがとても嬉しかった。

このように、ベストスピーカー／ベストプレゼンはこれからますます社会的に大きな意義を持つものになっていくと考える。そんなサービスを提供できることは私たちにとって大きな喜びである。

プロフィール

1992年 日本テープ株式会社 入社

2013年 株式会社ベストスピーカー教育研究所
設立

現在 株式会社ベストスピーカー教育研究所 取締役

事業内容は、スピーチスキルセミナー「ベストスピーカー」・プレゼン講座「ベストプレゼン」のセミナー企画・運営。

スピーチスキルセミナー <http://best-speaker.com>

プレゼン講座 <http://best-presen.com>